品目別レポート（緑茶）

■品目説明

農林水産省による農林水産統計（20 年 8 月 19 日発表）によると、2020 年産一番茶（全国の標準的な時期は 3 月 10 日～5 月 31 日）の主産県（静岡県、鹿児島県、三重県、埼玉県、京都府）における摘採面積は 2 万 6,200ha で、前年産に比べ 900ha（3%）程度減少している。主産 5 県の荒茶生産量は 2 万 1,200 トンで、2,300 トン（10%）減少している。静岡県が前年比 14%減の 9,420 トン、鹿児島県が同 3%減の 8,010 トン、三重県が同 16%減の 2,090 トン、埼玉県が同 2%減の 440 トン、京都府が同 5%減の 1,250 トンとなった。

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出競争力強化戦略（H28 年 5 月）」によれば、日本茶の海外での評価は高まっているが、競合する中国産品等との競争に勝ち抜き、市場を獲得するため茶文化の普及も含めた積極的なプロモーション展開が必要で、あわせてニーズに応える効率的な生産体制の構築を目指すべきとの指摘がされている。また輸出相手国・地域ごとに異なる残留農薬基準が設定されており、各々の残留基準をクリアすることが課題としている。また、抹茶に対する海外の高いニーズに対応するため、生産性の高い新型てん茶炉の導入支援等を通じて、てん茶供給量を平成 32 年までに倍増させるとした。

■貿易概況

▼表1：日本の 緑茶 輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
米国	52,622,891	1,407	61,547,297	1,595	59,448,460	1,485	△ 3.4	△ 6.9
台湾	12,200,799	1,080	12,767,368	1,216	13,984,995	1,389	9.5	14.2
ドイツ	11,934,412	342	12,637,648	374	11,236,117	346	△ 11.1	△ 7.5
シンガポール	10,026,497	343	8,387,207	307	9,087,750	324	8.4	5.5
香港	10,826,380	206	7,831,506	173	5,803,541	143	△ 25.9	△ 17.3
全世界	128,091,818	4,642	138,718,466	5,102	134,253,968	5,108	△ 3.2	0.1

注：対象はHSコード　0902.10、0902.20

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

19 年の緑茶の輸出動向をみると、金額は前年比 3.2%減の 1 億 3,425 万ドル、数量は同 0.1%増の 5,108 トンであった。

主要輸出国・地域の動向をみると、1 位（金額ベース）の米国は、金額が前年比 3.4%減の 5,944 万ドル、数量が同 6.9%減の 1,485 トン、シェアでは金額で 44.2%、数量で 29.0%を占めた。2 位は台湾で、金額が同 9.5%増の 1,398 万ドル、数量は同 14.2%増の 1,389 トンだった。3 位はドイツで、金額が同 11.1%減の 1,123 万ドル、数量は同 7.5%減の 346 トンだった。19 年の輸出単価を見ると、

Copyright （C） 2020 JETRO. All rights reserved 禁無断転載

トンあたり 26,283 ドルで前年比 3.4%低く取引された。

茶の生産国である日本は、茶栽培において残留農薬基準が設定されている農薬は多数存在するが、茶の非生産国である欧米等の国々では使用を前提とした残留農薬基準が定められていない農薬も多く、残留基準が厳しくなっている。そのため、輸出向けの茶園における栽培管理では、輸出相手国・地域で残留農薬基準設定のある薬剤や、農薬を使わない防除方法のみで防除体系を組む必要がある。こうしたことから、前出「農林水産業の輸出競争力強化戦略」では、米国には残留農薬基準の設定申請を進め、平成 32 年までに産地から設定要望が強い薬剤（約 30 剤）のうち、半数の申請を目標とすることや、EU 向けには有機栽培を推奨するとともに、残留農薬基準をクリアする防除体系を確立し、平成 32 年までに普及面積を倍増させるとしている。

■海外事情

●米国

▼表2：米国の緑茶輸入

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	51,177,604	1,716	61,529,716	1,825	60,450,163	1,731	△ 1.8	△ 5.2
中国	44,507,797	7,329	48,147,325	8,291	44,149,729	7,742	△ 8.3	△ 6.6
カナダ	9,940,687	555	12,143,162	720	10,863,177	508	△ 10.5	△ 29.4
スリランカ	5,955,122	541	9,148,721	615	8,815,890	655	△ 3.6	6.5
台湾	6,291,557	816	6,707,149	911	7,747,938	1,029	15.5	13.0
全世界	143,961,547	16,703	165,408,791	17,348	163,103,723	17,682	△ 1.4	1.9

注：対象はHSコード　0902.10、0902.20

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

米国の 19 年における緑茶輸入は、前年比 1.4%減の 1 億 6,310 万ドル、数量ベースでは 1.9%増の 1 万 7,682 トンとなった。

輸入相手国の動向みると、1 位が日本で前年比 1.8%減の 6,045 万ドル（シェア 37.0%）となった。数量ベースでは、依然として中国が 1 位だが、日本からの輸入単価がトンあたり 3 万 4,922 ドルと、前年比 3.5%高く取引されている。一方中国からの輸入単価は、同 5,702 ドルとなっており、日本産を高級品として扱う傾向が見て取れる。2 位は中国で、前年比 8.3%減の 4,414 万ドル、3 位のカナダは、同 10.5%減の 1,086 万ドルとなった。上位 2 カ国の合計シェア（金額ベース）は、64.1%となった。

米国茶葉協会（The Tea Association of the USA）の調査『2019-2020 茶市場のレビューと予測（Tea Market Review & Forecast)』によれば、米国の茶（紅茶、ハーブティー等含む）の消費は年々増加傾向にある。2019 年の茶の売り上げは、前年比微増の 126.7 億ドルとされ、引き続き成長が見込まれ

Copyright （C） 2020 JETRO. All rights reserved 禁無断転載

ている。緑茶は消費者の関心を呼び続けており、体に良いものとして受け入れられているとしている。

ジェトロ「現地市場価格調査（2020 年 4 月）」によると、ロサンゼルスの日系小売店舗（ローワーミドル層向け）での伊藤園緑茶パック（産地：日本、1.41oz）の価格例は 4.49 ドル（約 494 円）、サンフランシスコのアッパーミドル向け日系店舗における伊藤園「おーいお茶」缶（産地：日本、11.5floz）が 1.38 ドル（約 151 円）、ニューヨークのミドル層向け日系店舗における「綾鷹」ペットボトル 525ml が 2.49 ドル（約 274 円）であった。

●台湾

19 年の緑茶輸入額は前年比 10.2%増の 2,841 万ドル、数量ベースでは同 7.1%増の 10,213 トンだった。主要輸入相手国・地域別にみると、1 位の日本が 1,413 万ドル（同 9.4%増）、数量ベースで 11.3%増の 1,353 トン。2 位のベトナムが 1,330 万ドル（12.7%増）、3 位がスリランカで 54 万ドル（5.5%増）であった。シェア（金額ベース）は 1 位の日本が 49.7%、2 位のベトナムが 46.8%で、上位 2 か国で約 96.5%を占めている。

19 年の単位あたりの輸入価格をみると、日本産がトンあたり 1 万 448 ドル（前年比 2.0%減）、ベトナム産が 1,544 ドル、スリランカ産が 6,308 ドルとなっている。

▼表3：台湾の緑茶輸入

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	12,298,717	1,083	12,923,909	1,216	14,136,540	1,353	9.4	11.3
ベトナム	11,733,962	7,972	11,810,582	8,043	13,305,216	8,615	12.7	7.1
スリランカ	486,265	86	514,209	85	542,566	86	5.5	1.2
インドネシア	633,097	318	384,184	176	296,768	143	△ 22.8	△ 18.8
韓国	102,260	5	43,775	1	30,492	2	△ 30.3	100.0
全世界	25,359,106	9,471	25,779,568	9,538	28,413,962	10,213	10.2	7.1

注：対象はHSコード　0902.10、0902.20

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

台湾で「茶」といえば基本的にはウーロン茶を指す。ただしペットボトル飲料を中心に緑茶の市場も形成してきている。前出「農林水産業の輸出力強化戦略」によると、台湾への緑茶輸出拡大に向けた取り組みとして、さらなる消費者の獲得のため、中国産品等と競合する市場環境の下、良質で比較的安価な製品の提供を進め、日本茶が持つストーリー性や文化的側面を訴え、差別化していくとしている。アクションとしては、日本茶・茶文化を紹介できる人材を現地に配置し、紹介イベント、PR を実施すること、抹茶については飲用としてだけではなく、これを使った菓子類を提案するなど多用途利用に向けた PR を行うこと、台湾茶業博覧会へ出店し、消費者やバイヤーに対して日本茶の品質や日本の喫茶文化等を紹介すること、等を挙げている。

Copyright （C） 2020 JETRO. All rights reserved 禁無断転載

消費者の間では「安全でヘルシーな食品・メニューが美味しく食べられるなら、多少高額でもそれを求めたい」という意識も高まっている。コンビニなどでは、日本商品の話題作りを行っており、例えば日本から抹茶を輸入して、抹茶フェアを行っている。中でもソフトクリームとフラッペの抹茶味、どら焼きの抹茶味などは人気がある。日本産原料を用いた商品は飲料だけでなく食品にも見られ、台湾の一般的なスーパーマーケットでは日本産抹茶を用いたウエハースが 1 袋 39 元で販売されていた事例などがある（ジェトロ『日本食品消費動向調査（台湾）』2018 年 3 月）。

ジェトロ「現地市場価格調査（2020 年 4 月）」によると、現地小売店（ローワーミドル層向け）でのキリン「生茶」ペットボトル（産地：日本、525ml）が 39 台湾元（約 141 円）、現地系小売店（アッパーミドル層向け）での伊藤園「おーいお茶」缶（産地：日本、340g）が 50 台湾元（約 181 円）であった。

Copyright （C） 2020 JETRO. All rights reserved 禁無断転載

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部　農林水産・食品課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32　アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責条項】
本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

Copyright （C） 2020 JETRO. All rights reserved 禁無断転載